

試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名：極大粒落花生「おおまさりネオ」の安定生産に向けた栽培技術			
〔要約〕播種時期は5月中旬から5月下旬が適し、早期播種の場合はべたがけ栽培を推奨する。収穫時期は開花期後85～90日前後とする。栽植様式について、株間は収量に影響を与えず、条数を増やすことで製品化率の向上につながる。			
キーワード 落花生、極大粒、レトルト、ゆで莢、栽培方法			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター 落花生研究室 協力機関 JAちばみどり、農林総合研究センター 流通加工研究室		
実施期間	2016年度～2018年度		

〔目的及び背景〕

新たに品種登録出願された極大粒落花生「おおまさりネオ」について、ゆで落花生用品種として普及を図るために、品種の基本的特性を解明するとともに、ゆで落花生の安定生産に向けた栽培技術を確立する。

〔成果内容〕

- 1 「おおまさりネオ」は5月上旬～6月中旬に播種した場合、ゆで豆重は播種が早いほど重い一方で、ゆで豆製品化率は低い傾向にある（表1）。ゆで豆製品重は各年5月中旬及び5月下旬が安定して重く、この時期が播種時期として適する。
- 2 4月中旬に播種した場合、パスライトなどの不織布で被覆しべたがけ栽培を行うと、無被覆栽培と比べて開花日数は1週間程度早まり、ゆで豆製品重は増加する（表2）。
- 3 開花期後83～97日で収穫した場合、開花期後日数が遅くなるほど生莢実重やゆで豆製品重は少なくなる（表3）。一方で食味評価結果は開花期後90日が優れる。以上より、ゆで豆に適した収穫時期は開花期後85～90日である。
- 4 慣行の2条栽培では、株間の違いにより、収量や品質に差は確認されない（表4）。
- 5 3～4条栽培では2条栽培と比べて開花期が1～2日早まり、ゆで豆製品化率が高まる傾向が見られる（表5）。

〔留意事項〕

3～4条栽培は銚子地域で一般的に行われている方法で、慣行の2条栽培と比較して、中央部の播種作業が行いにくく、マルチの規格などが変わることで必要な機械も変わることから、導入コストなどに留意する必要がある。

〔普及対象地域〕

千葉県内の落花生生産者

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 播種時期の違いが生育及び収量・品質に及ぼす影響（平成28～30年度）

年次	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	開花 日数 (日)	収穫日 (月/日)	最長 分枝長 (cm)	ゆで 豆重 (kg/10a)	ゆで豆 製品重 (kg/10a)	ゆで豆 製品化率 (%)
平成28年	4/26	6/13	48	9/12	36	966	265	27
	5/11	6/23	43	9/21	47	933	302	32
	5/24	7/1	38	9/29	51	898	202	22
	6/8	7/11	33	10/11	52	498	78	16
平成29年	5/2	6/14	43	9/12	32	1,222	212	17
	5/18	6/25	38	9/21	41	1,194	250	21
	5/29	7/5	37	10/5	45	923	279	30
	6/15	7/15	30	10/12	45	899	145	16
平成30年	5/1	6/16	46	9/13	51	1,720	279	16
	5/16	6/26	41	9/27	54	1,812	312	17
	5/30	7/4	35	10/2	53	1,837	500	27
	6/13	7/14	31	10/11	49	1,585	454	29
平均	4/29	6/14	46	9/12	40	1,303	252	20
	5/15	6/24	41	9/23	47	1,313	288	24
	5/27	7/3	37	10/2	50	1,219	327	27
	6/12	7/13	31	10/11	49	994	226	20

- 注1) 2条マルチ栽培、基肥は化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用
 栽植本数は5,128株/10a、無かん水
 2) 開花日数は播種から開花期までに要した日数
 3) しみ、病害虫、莢のへこみが無い4.5cm以上の2粒莢をゆで豆製品とした
 4) ゆで豆製品化率は、ゆで豆製品重をゆで豆重で割ったものである

表2 開花期までの被覆が生育及び収量・品質に及ぼす影響（平成30年度）

被覆	株立 本数	出芽率 (%)	開花期 (月/日)	開花 日数 (日)	収穫日 (月/日)	最長 分枝長 (cm)	ゆで 豆重 (kg/10a)	ゆで豆 製品重 (kg/10a)	ゆで豆 製品化率 (%)
有り	1本	94	5/29	40	8/28	46	1,570	265	17
	2本	94	5/30	41	8/28	55	1,633	255	16
無し	1本	89	6/6	48	9/3	50	1,685	144	9

- 注1) 播種日4月19日、基肥は化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用、2条マルチ栽培
 栽植密度は5,128株/10a、無かん水、被覆資材はパズライトを使用
 2) 開花日数は播種から開花期までに要した日数
 3) しみ、病害虫、莢のへこみが無い4.5cm以上の2粒莢をゆで豆製品とした
 4) ゆで豆製品化率は、ゆで豆製品重をゆで豆重で割ったものである

表3 収穫時期の違いが生育及び収量・品質に及ぼす影響（平成28～30年度）

年次	播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	収穫日 (月/日)	開花期 後日数 (日)	最長 分枝長 (cm)	ゆで 豆重 (kg/10a)	ゆで豆 製品重 (kg/10a)	ゆで豆 製品化率 (%)
平成28年	5/24	7/2	9/23	83	50	945	399	42
			9/29	89	-	789	268	34
			10/6	96	-	571	154	27
平成29年	5/29	7/5	9/25	82	40	1,316	336	26
			10/6	93	-	1,034	327	31
			10/12	99	-	954	285	24
平成30年	5/30	7/4	9/27	85	49	1,836	412	23
			10/2	90	-	1,840	370	20
			10/9	97	-	1,714	395	23
平均	5/27	7/3	9/25	83	47	1,366	382	30
			10/2	91	-	1,221	322	29
			10/9	97	-	1,080	278	25

注1) 2条マルチ栽培、栽植本数は5,128株/10a、
基肥は化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用、無かん水
2) 開花期後85日、90日、95日を目安に収穫調査を実施した
3) しみ、病害虫、莢のへこみが無い4.5cm以上の2粒莢をゆで豆製品とした
4) ゆで豆製品化率は、ゆで豆製品重をゆで豆重で割ったものである

表4 株間が生育及び収量・品質に及ぼす影響（平成28年度）

株間 (cm)	栽植 本数 (株/10a)	開花期 (月/日)	開花 日数 (日)	収穫日 (月/日)	最長 分枝長 (cm)	ゆで 豆重 (kg/10a)	ゆで豆 製品重 (kg/10a)	ゆで豆 製品化率 (%)
20	7,692	6/28	33	9/27	52	857	343	40
30	5,128	6/28	33	9/27	51	903	363	40
40	3,846	6/28	33	9/27	49	895	332	37

注1) 播種日5月26日、基肥は化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用
2条マルチ栽培、無かん水
2) 開花日数は播種から開花期までに要した日数
3) しみ、病害虫、莢のへこみが無い4.5cm以上の2粒莢をゆで豆製品とした
4) ゆで豆製品化率は、ゆで豆製品重をゆで豆重で割ったものである

表5 播種条数が生育及び収量・品質に及ぼす影響（平成30年度）

播種 条数	栽植 本数 (株/10a)	ベッド 幅 (cm)	条間 (cm)	通路 幅 (cm)	開花期 (月/日)	開花 日数 (日)	収穫日 (月/日)	最長 分枝長 (cm)	ゆで 豆重 (kg/10a)	ゆで豆 製品重 (kg/10a)	ゆで豆 製品化率 (%)
2	5,128	70	45	60	6/28	43	9/20	46	1,939	251	13
3	5,555	120	45	60	6/27	42	9/20	51	1,909	400	21
4	6,349	150	40	60	6/26	41	9/20	48	2,050	345	17

注1) 播種日5月16日、基肥は化成13号(3-10-10)を100kg/10a施用
株間30cm、マルチ栽培、無かん水
2) 開花日数は播種から開花期までに要した日数
3) しみ、病害虫、莢のへこみが無い4.5cm以上の2粒莢をゆで豆製品とした
4) ゆで豆製品化率は、ゆで豆製品重をゆで豆重で割ったものである

[発表及び関連文献]

平成元年度試験研究成果普及情報「極大粒落花生「おおまさりネオ」の生莢の品質保持技術」

[その他]

プロジェクト研究事業「千葉県の新たな時代を切り開くオリジナル品種の開発」(平成29～令和3年度)